

伊賀の自然

第2回

森に住むアオガエル

武田恵世

モリアオガエル

田植えがはじまり、蛙の鳴き声でにぎやかになる季節になってきました。このモリアオガエルは名前の通り森に住んでいる緑色（青色）の蛙で、普段は樹上で虫を食べて暮らしています。田んぼにはまじりません。体長4〜8センチくらいでケロコ軍曹のように緑色でかわいいので蛙嫌いの



モリアオガエルの卵塊

方でも親しめるのではないのでしょうか？5月の連休頃から、森に囲まれた池や小川の岸辺の、水面の上に張り出した木や草の枝に泡のような卵塊を作り卵を産みます。その光景は写真のようにまるでクリスマスツリーです。あたりがすっかり暗くなった深夜に枝先に集まって一回り大きな雌の背中に雄が乗って足で泡立てながら産卵します。オタマジャクシが孵化すると深夜に1匹ずつぼたりぼたりと真下の水面に落ちて行きます。アマガエルに似ていますが、少し大きいことと、眼が赤く、白目の部分が金色であることなどで区別できます。アマガエルと同じく背中からフグ毒と同じ成分の毒を出すので、触つたら手をよく洗いましょう。全国の多くの地域で天然記念物に指定されています。

青山高原（久居から）



グミの実

伊賀の山並み

さて今回は、前回の竜王山の更に東の山、伊勢との国境の青山高原（布引山地）です。このように1枚の布を引いたように見えるので、布引山地と名付けられ、近年は青山高原と名付けられています。モリアオガエルがたくさんいる山で伊賀の水源でもあります。一番の北の高い山は笠取山（834メートル）です。頂上にあるのはレーダー基地で米軍と共用で極東の広い範囲を監視しているそうです。「カサトリ」とはグミの古語です。確かにグミが多く、たくさん採れます。渋みがありますが、ジャムにすると良いようです。また、笠を形取つたような山容から笠取山と名付けられたようです。笠がとられるほど年中風

青山高原全景（笠部から）



が強いからなどと言う人が最近いるようですが、そんな年に年中風が強いわけではありません。南側の凹みは大峠と言う津へ向かう江戸時代までの主要街道でした。当時は徒歩が主なので、最短距離を行けば良く、青山峠や長野峠を迂回する必要は特になかったのです。友生から、坂下に抜けて、木津川の最上流を遡れば、大峠に行けます。百地屋敷も当時は主要道路沿いだったのです。それから南に丸山草原、三角点をへて、青山峠に落ち込みます。この布を引いたような自然景観を守るために国定公園に指定されました。伊賀の水源であるこの布引山地の自然は子々孫々まで残して行きたいものです。

武田恵世

歯科医師、歯学博士伊賀市上野桑町で開業。伊賀市環境保全市民会議レッドデータブック作成委員会委員長。環境省希少野生動物種保存推進員。日本鳥学会、日本生態学会会員他。著書に「風力発電の不都合な真実」（アットワークス刊）などがある。